

# 海のブランド物語

vol.11

文=安藤 健(本誌) 写真提供=ネクサスマリン  
text by Ken Ando (Kazi), photos by Nexus Marine AB

ネクサス

# NEXUS

ヨットやボートの世界には、ボートビルダーはもちろん、艦装品やセール、ウエアに至るまで、歴史ある海のブランドが数多くある。自然という厳しい現場の中でもまれ、ユーザーの期待に応えてきたからこそ、信頼を勝ち得てきたのだろう。当連載では、そんな世界のマリンブランドの数々を取り上げ、あまり知られていないそれぞれの歴史を紹介していく。今回は、スウェーデンの電子機器メーカー「ネクサス」。新進のブランドながら、その背景には長い歴史を持っている。



シルバがヨットレーシングの世界への参入を機に立ち上げたブランド「ネクサス」は、2006年に分離独立。その名前は、すっかり世界中のセーラーに浸透しつつある

## THE HISTORY OF NEXUS

- |      |   |
|------|---|
| 1933 | スウェーデンのシェルストロム兄弟たちが、世界初の分度器機能を持つ液体充填式コンパスを開発。シルバ社を創業した。 |
| 1948 | 初めてのマリンコンパスを発表。   |
| 1981 | 初めての電子航海計器(インストルメント)である「1000シリーズ」を発表。各方面で大きな注目を集める。     |
| 1987 | さまざまなデータを同時に表示できるなど、機能が大きく向上したダイレクションシリーズを発表。           |
| 1993 | ネクサスシリーズを発表。  |
| 2001 | VHFをラインナップに加える。   |
| 2003 | ネクサスブランドとして、レースの分野への本格的な参入を開始。NX2シリーズを発表。               |
| 2006 | ネクサスマリンとして、シルバから分離独立。同時に、シルバのマリン関連製品については、世界総販売元となった。   |
| 2007 | NXRシリーズを発表。   |
| 2009 | 経営権が、ニュージーランドのリチャード・マカリストとディーン・バーカーの手に委譲された。            |

## 源流はスウェーデンのコンパスメーカー

プレジャーボートに限らず、海を走るすべての船にとって、自分がいる位置を正確に把握することは何よりも大切だ。GPSが広く普及した現代では、その作業は実に容易になったとはいえ、ナビゲーションの基本は変わらない。自分の進んでいる方角(針路)や目的地の方角を知るため、また、GPSが使えない場合のツールとして、コンパスが必需品であることに変わりはない。

そんなコンパスの世界で、マリンのみならず登山などアウトドアの分野、さらに測量や軍用といったプロユースを含め、世界ナンバーワンのブランドとして知られているのが、スウェーデンのシルバ(SILVA)

# NEXUS

Passion for Performance™

だ。1932年、シェルストロム(Kjellström)兄弟たちは、世界初となる機能を持つ液体充填式コンパスを発売し、同社を創業した。その新製品とは、「分度器機能を備えたコンパス」であり、真北(0度)を知ることしかできなかった従来のコンパスに対して、進む方向の数字も瞬時に把握できるようになった。この商品とほとんど変わらぬ機能を持つ製品が、現在も同社のラインナップに並び、多くのユーザーに愛用されている。

一躍トップブランドとなったシルバが、マリンコンパスに本格的に取り組み始めたのは1948年以降のこと。エンジンの振動に強いブラケットを備えたパワーボート向けのモデルや、セールボート向けに関しては、レースからクルージングまで、用途に応じてさまざまなタイプが開発されていった。

マリンの世界でも着実にファンを獲得していったシルバは、さらにラインナップを拡大する。1981年、初めての電子航海計器(インストルメント)である「シルバ1000」を発表。当時の製品は、スピードや水深、風向、風速といったものを数字で表示するだけのシンプルなものだったが、コストパフォーマンスの高さが特徴で、ドイツの『Yacht』誌で「コンパスグランプリ」を受賞するなど好評を博した。

インストルメントについては、時代とともに機能はさらに多種多様となり、1987年には、複数の情報を同時に表示するダイレクションシリーズがヒット。1993年に登場したネクサスシリーズでは、各種計器間でのネットワークを構築できるようになり、もはやコンピューターと呼んでもいいほどに進化していく。2003年には、NX2シリーズを引っ提げて、レース艇市

場にも本格的に参入することを発表。さらに2006年には、廉価版のNXシリーズを投入するのに合わせて、インストルメントを扱っていた部門が、ネクサスマリン(Nexus Marine AB)としてシルバから分離独立した。

## 経営に参画するのはトップセーラー

ネクサスマリンとして独立した後も、シルバのマリン関連製品の世界総販売元としてパートナーシップを築いている。2007年にはハイエンドモデルであるNXRシリーズを発表。2005-2006年のボルボ・オーシャンレースではオフィシャルサプライヤーになるなど、グランプリレースの世界にもネクサスの名前は完全に浸透した。前身のシルバ時代を含めると、すでに30年以上の歴史を有するだけに、インストルメントメーカーとしての技術の蓄積は十分だろう。

そんなネクサスマリンにとって、独立から間もない2009年に大きな転機が訪れた。同社の経営権が、キウイヨットイング・コンサルタント(Kiwi Yachting Consultants)を主宰するリチャード・マカリスト(Richard Macalister)と、ディーン・バーカー(Dean Barker)の二人のニュージーランド人の手に移ることになったのだ。マカリストは、プロセーラーとして、1980年代以降にウィットブレッド世界一周レースに2度参戦したほか、ワントンカップやシドニー〜ホバートレースといった数々の国際外洋レース、さら



パワーボート向けのマリンコンパス「100BC」(価格:39,900円)。水平面と垂直面のどちらにも取り付けが可能で、LED照明を内蔵している



セールボート向けの製品のひとつ「103PE」(価格:33,600円)はディンギーレーサー向けで、それぞれのタックで色の違う目盛りを読むことで、ヘッダーやリフトが分かる



左:2009年にネクサスの経営権を握る一人となったディーン・バーカー。エミレーツ・チームニュージーランドのスキッパー／ヘルムスマンを務める、現役バリバリのトップセーラーだ  
上:ハイエンドモデルのNXRシリーズを搭載したグランプリレーサー。ボルボ・オーシャンレースに代表される、過酷な最前線で育まれたノウハウが詰まっている。バックライトは赤(写真)か緑を選択可能



ネクサスのオーナーの一人であるリチャード・マカリスト(右)と、日本での輸入販売を手がけるノルディックスボーツ代表の浦上智康氏



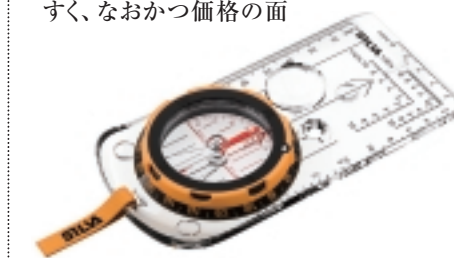
ヘッドオフィスが入っている、スウェーデンのストックホルムのビル。周辺は、古い町並みが残る場所なのとか。セールス部門の中心は、イギリスに置かれている

にはエド・ベアードのクルーとして長く国際マッチレースサーキットを転戦するなど、凄腕のセーラーである。一方のバーカーは、前回のアメリカズカップでスキッパー／ヘルムスマンを務め(エミレーツ・チームニュージーランド)、現在もACワールドシリーズで活躍中の、世界でも指折りのトップセーラーだ。

そんな二人がトップに君臨する会社だ

から、まさに現場の最前線で蓄積されたノウハウが、製品作りに余すことなく反映される。現在の社員数は20人にも満たないというが、少数精鋭で現場と開発部門が一体となって、高品質の製品を生み出すことに取り組んでいる。

「経営が、彼らトップセーラーの手に移ったからといって、レーシングの世界にだけ特化していくというものではありません。リチャードは、より多くの人たちにセーリングを楽しんでほしい、ということを口にします。電子航海計器というと、いろいろ機能がありすぎて、使い方に頭を悩ませてしまう人も多いと思いますが、より使いやすく、なおかつ価格の面



シルバの名前を世界に知らしめた「分度器機能を備えたコンパス」は、現在も多くの人に愛用されている。写真は「エクスベディション」(価格:5,250円)





NXシリーズの組み合わせの一例(NXセットB:価格236,250円)。左のNXシーデータにボートスピードや水温、ログ、水深などを表示。右のNXウインドに風向、風速を表示。NXシーデータとの組み合わせで、真風向や真風速、VMGなどの表示も可能になっている。トランスデューサーは、スピード、水温、水深の三つのセンサー付き

高さ1,260mmのストレートポールが付いたタイプのウインドトランスデューサー(価格151,200円)

NXシーデータの表示部。ボートスピードと測深に関する表示を兼用している。スタートタイマーのようなレース向け機能も備えている

NXウインドの表示部。数字だけのデジタル表示に加えて、画面右側には、方角が一目で分かるアナログ表示もできるので便利だ



左:NXシリーズに用意されるワイヤレスウインドトランスデューサー(価格:92,400円)。マスト内への配線作業が不要になる  
右:ウインドトランスデューサーのセンサー部。黒と白の模様が付いた球形の部分が回転することによって、風速を測定している

でもこなれた製品を提供することで、たくさんの人たちにセーリングをもっと楽しんでほしいというのが願いです」

そう話すのは、シルバ時代から30年にわたって日本での輸入販売を手がけてきた、ノルディックスポーツの浦上智康代表。同社では、日本語版の製品マニュアルを作成するなど、ユーザーに対するサポートも丁寧に行っている。現在、ネクサスでは世界80カ国以上に販売ネットワークを築いている。

### さらなる進化を続ける インストルメント

次に、ネクサスの現在のラインナップについて紹介したい。看板アイテムであるインストルメントは、クラブレーサー向けのNX2シリーズ、基本性能を抜き出した入門モデルという位置づけのNXシリーズ、大きな表示画面(ジャンボメーター)が売りの、グランプリレーサー向けハイエンドモデルであるNXRシリーズの三つから構成される。

いずれも、各計器が集めた情報をリンクさせることができるのが特徴だが、NX2シリーズを例にとると、「NX2スピードログ」(スピード・ログ計)、「NX2ウインドデータ」(風向風速計)、「NXマルチコントロールXL」(マルチファンクションディスプレイ)というのが、個々の製品群。もちろん、スピードログ計や風向風速計は単体でも使えるが、これらの製品に加えて、GPSの情報をサーバーに集約させることで、マルチコントロールに一步進んだ情報を表示させることが可能となる。情報は、VMGやCOG(対地針路)、SOG(対地速力)など30種類以上にも及ぶが、なかでも注目すべきは、タクティカルファンクション(TAC)と呼ばれる機能。スタート前にタッキングアングルを設定しておけば、レース中にヘッダーやリフトといった風の触れが瞬時に把握できる。

数々の情報があるだけに、いちいちボタンを押して切り替えるのも大変だと思う向きもあるだろうが、表示したい情報はユーザー自身でカスタマイズできる上、電源



NX2マルチコントロールの表示部。1台の計器に、サーバーに接続された各トランスデューサーやGPSからの情報を表示できる

NX2ウインドデータの表示部。ログトランスデューサーとの組み合わせで、真風向や真風速、VMGの表示も可能だ



NX2のサーバー本体。ここに各トランスデューサーやGPSからの情報が集まってくる。いわば、システムの心臓ともいえる部分だ



アナログ表示仕様のリピーター(表示部)が、風向風速計(写真)のほか、コンパス、スピード計、ステアパイロットにも用意される

ハイエンド機種のNXRシリーズは、大画面とタフな性能が自慢だ。黒バックに白文字か、白バックに黒文字の2タイプから選択できる



サーバーに集めた情報を、専用のソフトを使ってパソコン上に表示させることも可能だ。画面内により多くの情報が表示できるので、レーサーには便利

を落とした後でも最初に表示されるようにできるので心配無用だ。また、風向風速計などは、メーター表示のアナログタイプも用意されているので、変化を視覚で捉えたい方にはいいだろう。

エントリーユーザー向けには、NX2シリーズから基本的な機能を抽出したNXシリーズが用意されている。特筆すべきは、風向風速計のセンサー部であるウ

インドトランスデューサーに、ワイヤレス仕様が用意されていること。これだと、マストトップから配線作業を行う必要がなくなるというメリットがある。また、ログ、水温、水深のトランスデューサーが一体化したトリプルトランスデューサーも用意されているので、これを使えば船体に穴を開けるのが1カ所で済む。

レースをやらない

左:マリン仕様の双眼鏡「エテルナ」(価格:37,000円)。防水性能はもちろんだが、なんと水に浮く。コンパスやコンパス照明も内蔵  
右:シルバのマリン向け商品の一つ「ADCウインド」(価格:16,800円)。ハンディタイプの風速計で、羽根の一つがコンパスになっているため、風向も測定できる



艇の場合、ここまでの装備は不要だと考える人もいるかもしれない。しかし、例えば風の変化一つ取っても、感覚だけに頼ることなく、変化の傾向を数字で確認につかむことが可能になる。安全面を考えても、メリットは大きいといえるだろう。自分の使い勝手に合わせて、いろいろな計器を組み合わせることも楽しいはずだ。

【問い合わせ】  
ノルディックスポーツ  
〒372-0021 群馬県伊勢崎市  
上諏訪町2112-19 セビア1stビル102  
TEL: 0270-27-9505 <http://www.nordicsp.com/>

